

## 2項 音響工学会(3節 工学会,第5章 国際会議・シンポジウム等)

著者	牧野 正三, 鈴木 基之, 宮内 良太
雑誌名	東北大学電気通信研究所研究活動報告
号	14
ページ	295
発行年	2007
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10097/40842">http://hdl.handle.net/10097/40842</a>

## 音響工学会

主査 牧野正三, 幹事 鈴木基之, 宮内良太

音響工学会は、音波、固体振動、超音波などの弾性波を対象とする研究の成果を発表し、討論や意見交換をする場として、1950年頃に発足した研究会である。関連する分野は、電気音響、聴覚・心理音響、建築音響、騒音制御、デジタル補聴器、音声分析・合成、音声認識・理解、音環境工学など、多岐にわたっている。2007年度は、主査牧野正三教授、幹事鈴木基之助教、宮内良太助教のもとで、研究会4回（第348回～第351回）と通研講演会1回が開催された。会場は、第349回が東北大学工学部電子情報システム・応物系1号館451・453会議室、その他は全て電気通信研究所2号館大会議室で行われた。なお、第349回は超音波エレクトロニクス研究会と合同で、第350回は電子情報通信学会HIP研究会との共催で、第351回は生体・生命工学会と合同で開催された。第348回は、2007年7月26日（木）に開催され、研究発表2件、参加者は28名であった。第349回は、10月18日（木）に開催され、研究発表3件、参加者は48名であった。第350回は、12月6日（木）、7日（金）に開催され、研究発表30件、参加者は延べ106名であった。第351回は、2008年2月21日（木）に開催され、研究発表6件、参加者は41名であった。通研講演会は、2007年11月26日（月）にAdelbert Bronkhorst氏（TNO Human Factors, Soesterberg, Vrije Universiteit Amsterdam）による「Spatiotemporal interactions between audition and vision」という題の講演が開催され、参加者は35名であった。

## 仙台“プラズマフォーラム”

主査 畠山力三, 幹事 飯塚哲

本研究会は、放電、核融合などのプラズマ現象の基礎と新規物質創製や材料表面の改質、電気推進機などの応用とそれに関連する最新の研究成果に関して、特別講演及び特別企画を開催するとともに、活発な研究討論と研究発表を行うことを目的としている。

平成19年度の活動として、学部学生を中心とする既刊論文に基づいたプラズマ基礎およびプラズマ応用、計測に関する「研究討論会」を3回開催。大学院生によるマイクロプラズマ生成、液中プラズマ生成、高速プラズマ流制御、プラズマ推進機の開発、カーボンナノチューブ成長機構解明、新機能性カーボンナノチューブ・フラーレン形成、細管内薄膜形成などの研究発表会を2回開催。国内、国外研究者による大気圧・液中プラズマ生成と応用、バイオ・ナノシステム、イオン液体電解質プラズマ、フラーレン・グラフェン・カーボンナノチューブ、プラズマ閉じ込めと核融合、宇宙プラズマ、プラズマ流の基礎と応用に関する「研究発表」を2回開催した。多様な展開を見せるプラズマの応用技術とそれを支える基礎研究に関し、最新の研究成果を持ち寄り討論を行うとともに情報交換を行うことができた。以上の研究会参加者は、学内外合わせて常時50名前後であった。